

スキマから考える居場所あるまち

Think from “Sukima” about the city with whereabouts.

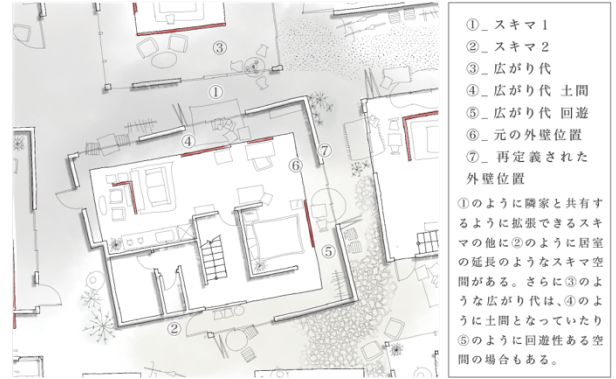
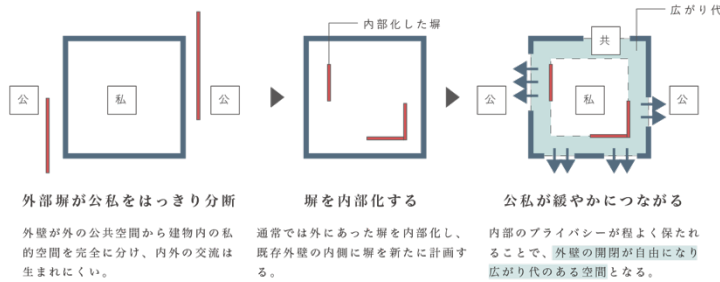
六角研究室 宮島 里帆

研究概要：スキマの個々を繋ぐ境界としての有効性に着目し、スキマで営まれるなんでもない日常の中に共有感覚を持つコモンズを創出することを目的とし、塀を内部化することで閉じながらも開く新たな住まいかたを提案した。

研究目的：住人が塀の外側を開閉することで、日々の暮らしに合わせて空間を伸縮させ選びとる。隣人や銭湯を訪れた人と共に自発的な行為を展開していき、初めてまちを訪れた人にも居場所を感じさせるまちとなることを期待する。

研究成果： 境界操作のしくみ①-内部化した塀

塀の内部化により可変性を持った境界のしくみを提案する。内部化した塀のさらに内側がプライベートを保たれた空間となることで外壁の開閉の自由度が上がり、内部塀と外壁の間の空間はスキマが拡張する広がり代としてのコモン空間となる。開くときは外のスキマとつながってパブリック性を増し、閉じればよりプライベートな落ち着いた空間となる。



苦労した点や感想など：修士研究として先行して行なった研究や設計手法の提案と、実際に対象敷地を設定してからの設計提案との間に一貫性を持たせることが最も苦労しました。しかしフィールドワークによるスキマの調査では、時間をかけて多くのまちを一つの視点から見比べながら歩いて回ることができ、自分の興味と向き合う貴重な経験をできたと感じています。